

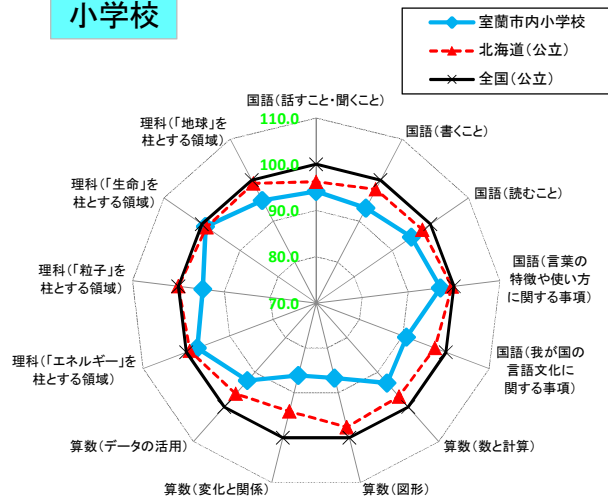
■室蘭市内の状況及び学力向上策（小学校数:9校、児童数:479人）（中学校数:7校、生徒数:480人）

【教科全体の状況】

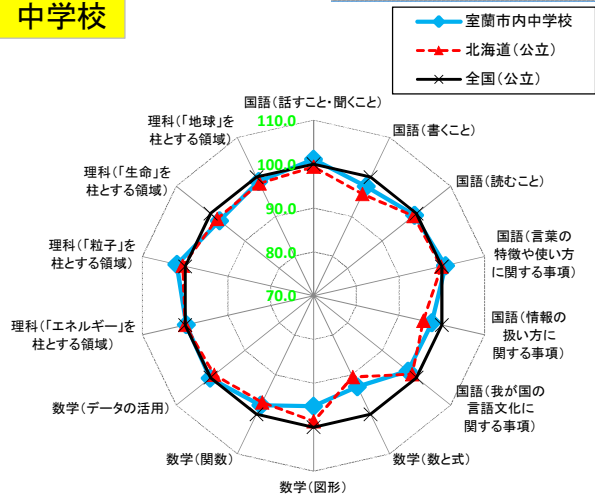
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	69
算数・数学	57	49
理科	61	49

小学校

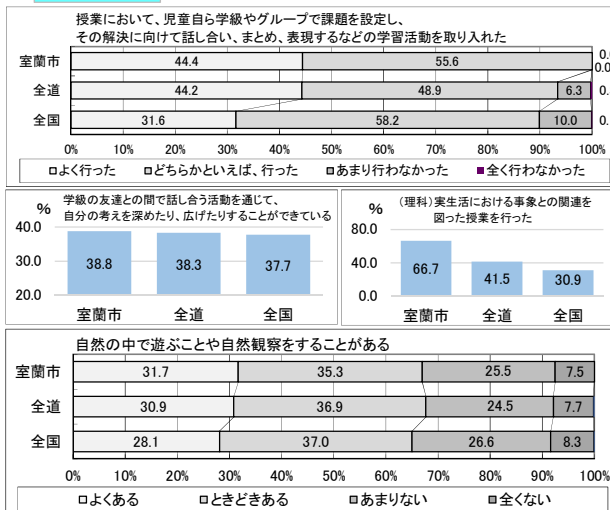


中学校

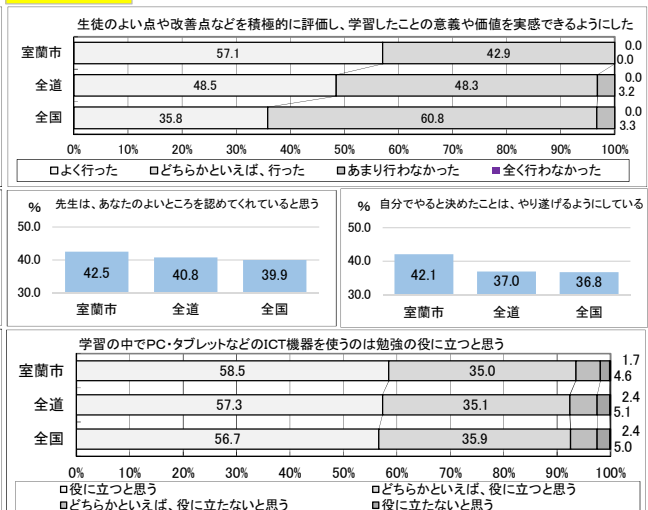


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、「生命」を柱とする領域において、全道の平均正答率を上回るとともに、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各中学校において、生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」、数学の「データの活用」の領域、理科の「粒子」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回るとともに、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと回答した生徒及び自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体でICT端末活用に係る授業改善の推進を行ったことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【室蘭市の学力向上策】

- ◎ 市独自の「学力向上プランシート」に基づく検証改善サイクルの確立に向けた各学校の組織的な取組の推進
- ◎ 小中連携教育の充実による教員の指導力向上や学力向上に向けた取組の実施
- ◎ ICT端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

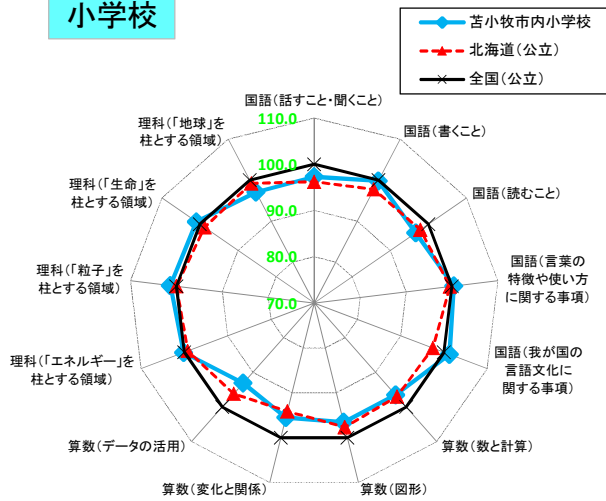
■ 苫小牧市内の状況及び学力向上策 (小学校数:23校、児童数:1362人) (中学校数:15校、生徒数:1287人)

【教科全体の状況】

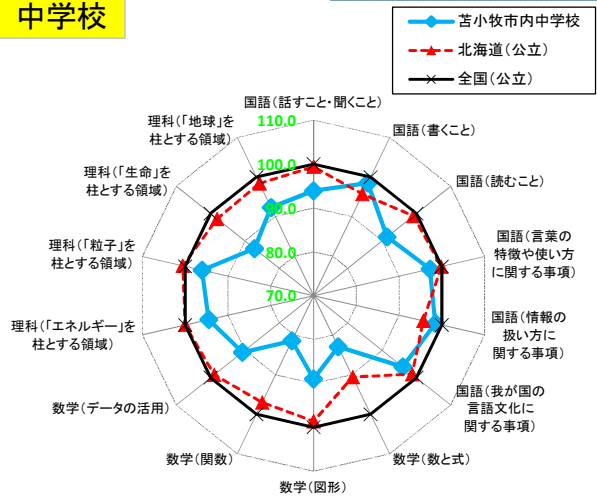
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	66
算数・数学	61	44
理科	63	46

小学校

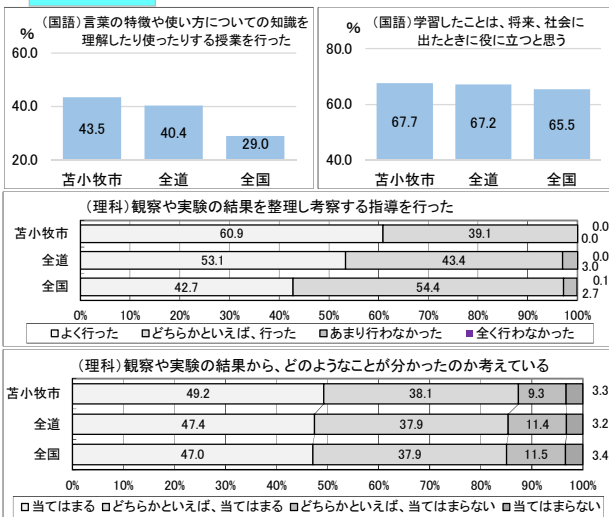


中学校

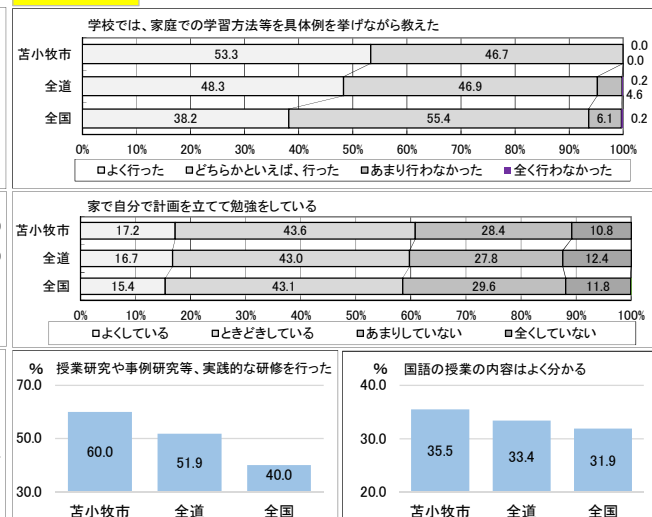


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回るとともに、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、「エネルギー」「粒子」「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回るとともに、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

市内の各中学校において、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市内の各中学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行い、「焦点化・イメージ化・視覚化」に基づく授業改善を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【苫小牧市の学力向上策】

- ◎ 苫小牧型小中連携教育「苫小牧ALL-9」による小・中学校間の一貫・連携した指導の推進
- ◎ ICT機器を活用した個別最適な学びと、協働的な学びの実現
- ◎ 市内共通取組事項「焦点化・イメージ化・視覚化」に基づく授業改善の推進



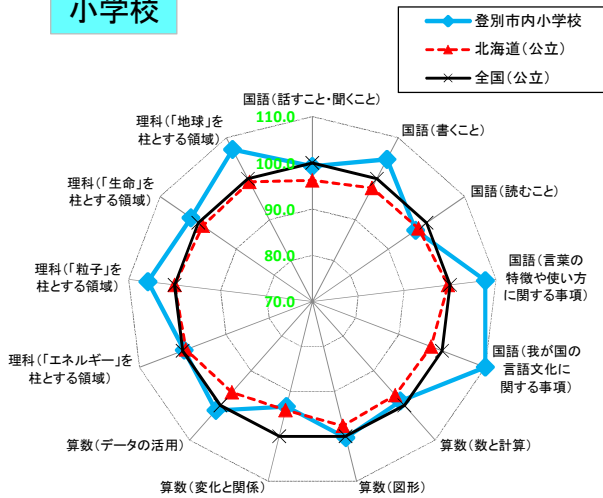
■登別市内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:265人）（中学校数:5校、生徒数:315人）

【教科全体の状況】

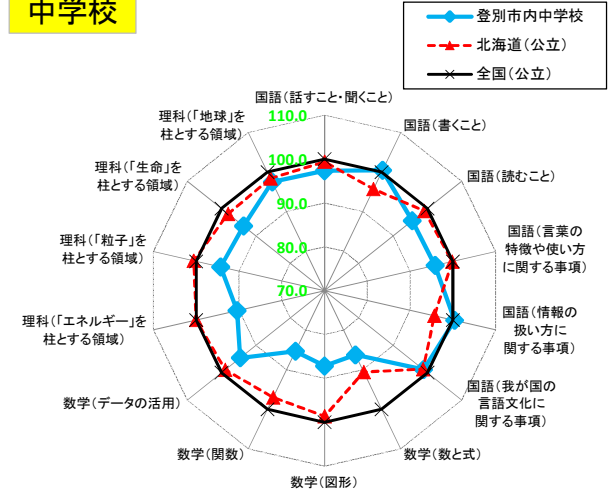
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	67
算数・数学	62	45
理科	66	46

小学校

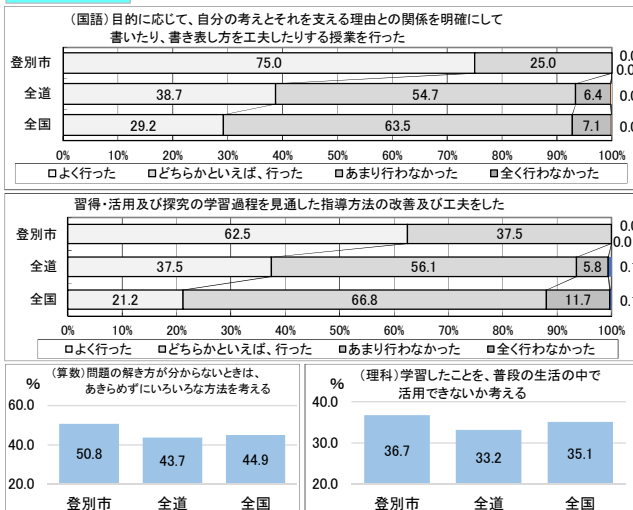


中学校

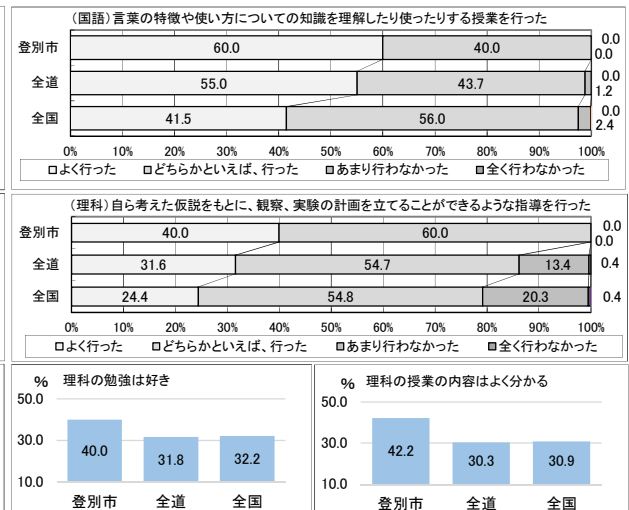


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

市内の各小学校において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した児童及び理科で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域と「情報の扱い方に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

市内の各中学校で、理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、理科の授業が好きと回答した生徒及び理科の授業の内容はよく分かるかと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【登別市の学力向上策】

- ◎ 登別市授業改善プランの策定
- ◎ 教員の指導力向上に向けた登別市教育課程課題検討委員会等と連携した取組の充実
- ◎ 「登別市小中一貫教育基本方針」に基づいた小・中学校9年間を見通した学習指導の充実
- ◎ 市情報教育推進協議会と連携したICT端末を活用しオンライン上で学習するための環境整備

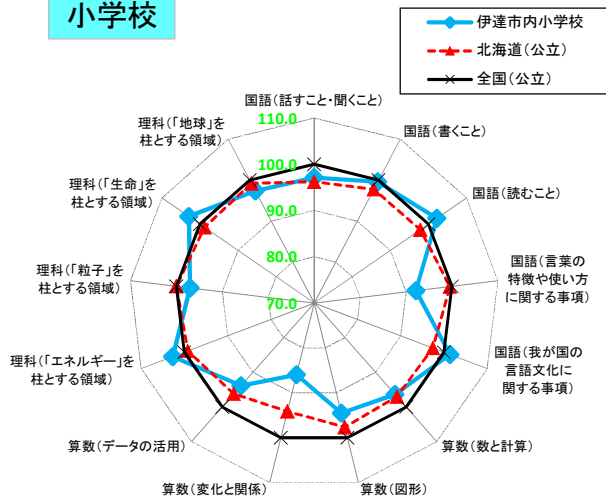
■伊達市内の状況及び学力向上策（小学校数：7校、児童数：200人）（中学校数：3校、生徒数：241人）

【教科全体の状況】

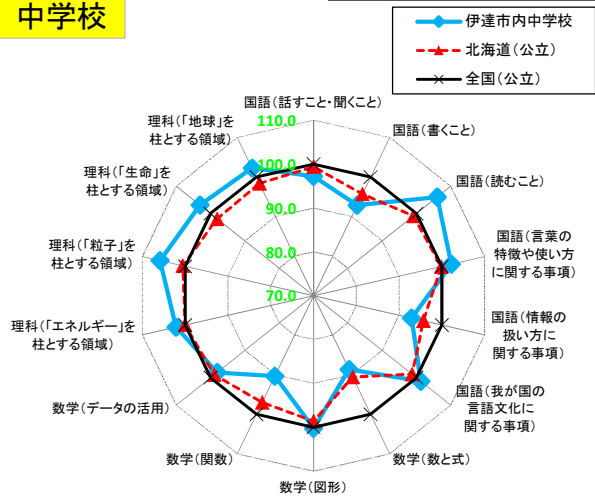
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	70
算数・数学	59	48
理科	64	51

小学校

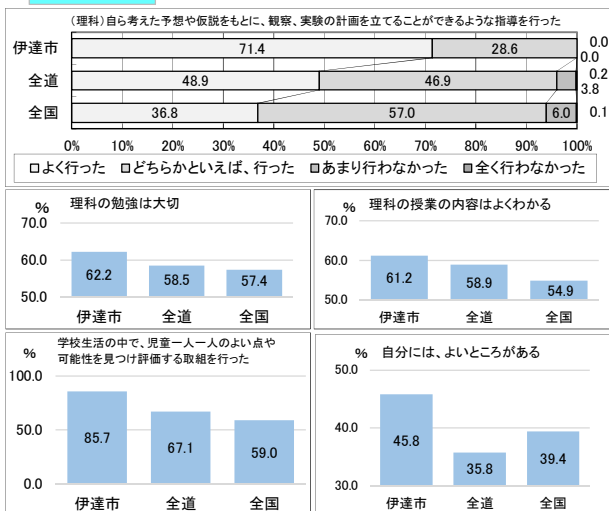


中学校

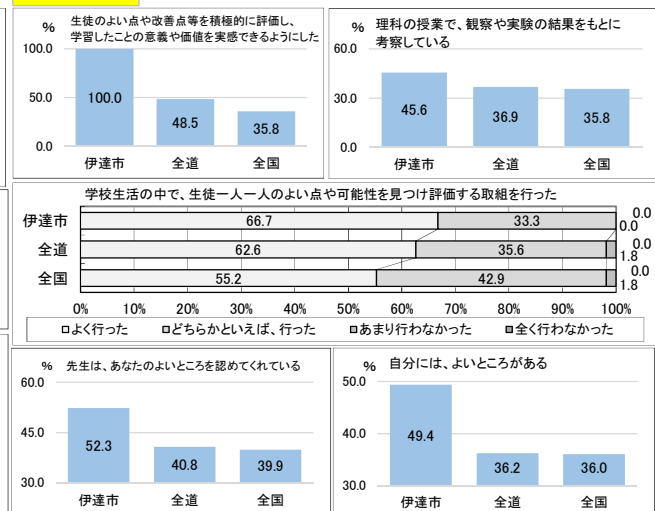


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

理科において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、「エネルギー」「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回るとともに、理科の勉強は大切だと思いと回答した児童及び理科の授業の内容はよくわかると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各小学校において、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行ったことにより、自分には、よいところがあると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

全ての中学校において、生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、理科の全ての領域で全国の平均正答率を上回るとともに、観察や実験の結果をもとに考察していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各中学校において、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行ったことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると回答した生徒及び自分には、よいところがあると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【伊達市の学力向上策】

- ◎ 「伊達市学力テスト」等の結果を基にした授業改善策の推進
- ◎ 指導内容の連続性や系統性を重視した小中高連携の推進
- ◎ ICT機器及びデジタル教材を活用した授業改善の推進及びオンライン学習の実施

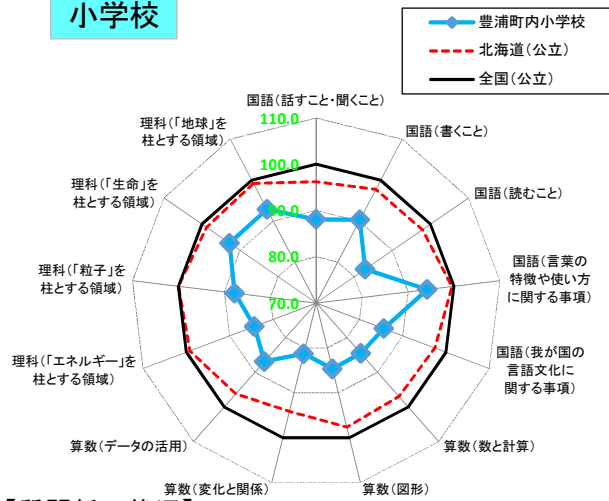
■豊浦町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:24人）（中学校数:1校、生徒数:14人）

【教科全体の状況】

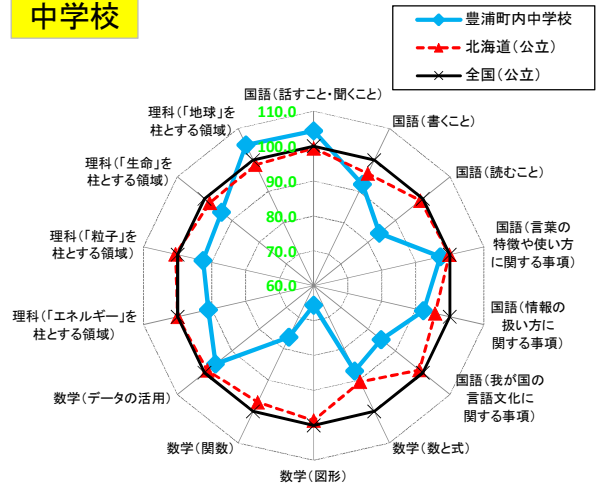
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	65
算数・数学	53	43
理科	56	48

小学校

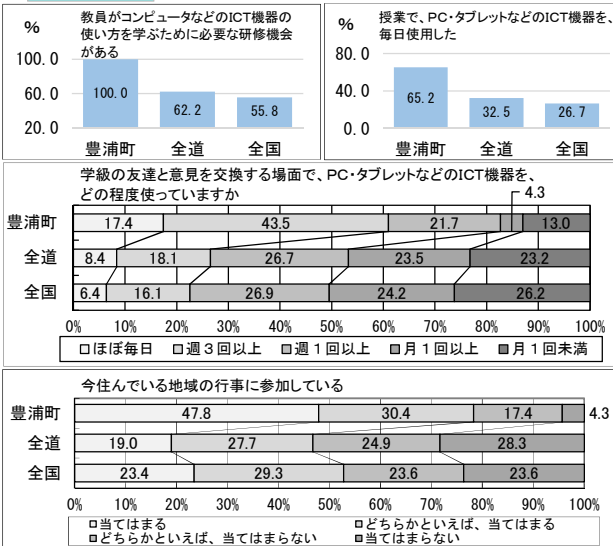


中学校

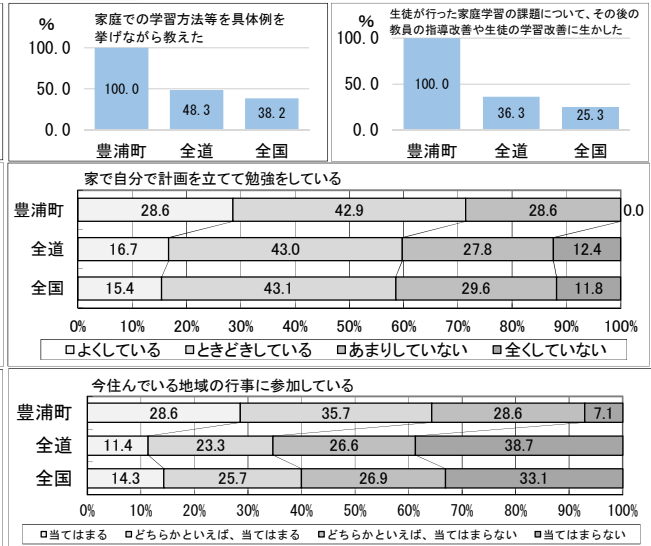


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全ての小学校において教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設けたことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、毎日使用したと回答した児童の割合及び学級の友達と意見交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で「ふるさと教育」等を通して、地域の人材や教材を活用したことにより、今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で授業改善に関わる研修会を開催し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んだことにより、国語科の「話すこと・聞くこと」及び理科の「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるとともに、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で「ふるさと教育」等を通して、地域の人材や教材を活用したことにより、今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【豊浦町の学力向上策】

- ◎ 教育委員会主催の研修会等による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員の授業改善の推進
- ◎ 社会教育と連携した地域の人材や教材の活用による「ふるさと教育」の推進
- ◎ 小中連携による乗り入れ授業の実施及びICT機器を活用した授業実践の共有

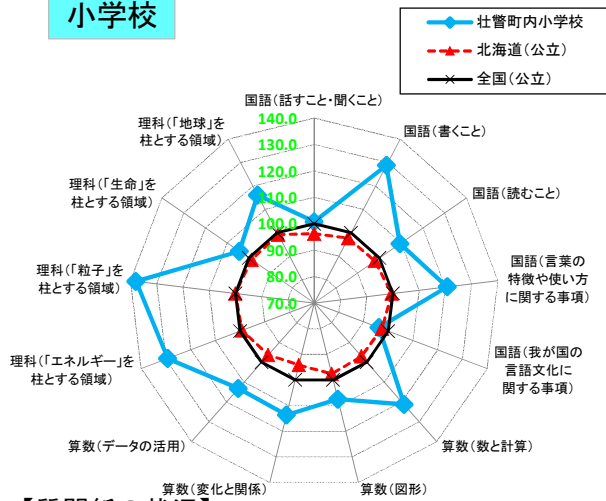
■ 壮瞥町内の状況及び学力向上策 (小学校数:1校、児童数:12人) (中学校数:1校、生徒数:21人)

【教科全体の状況】

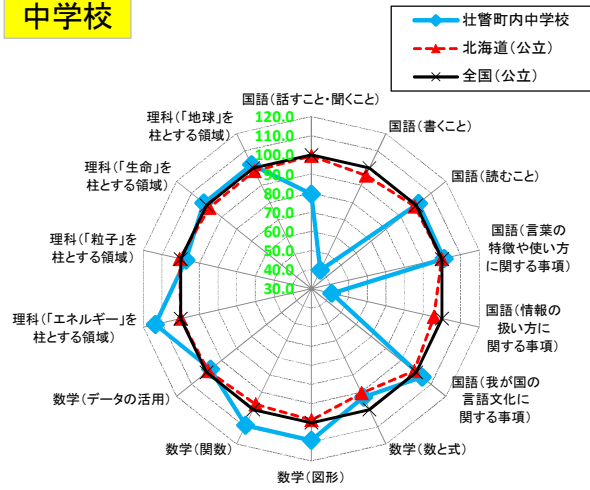
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	74	67
算数・数学	72	51
理科	75	51

小学校

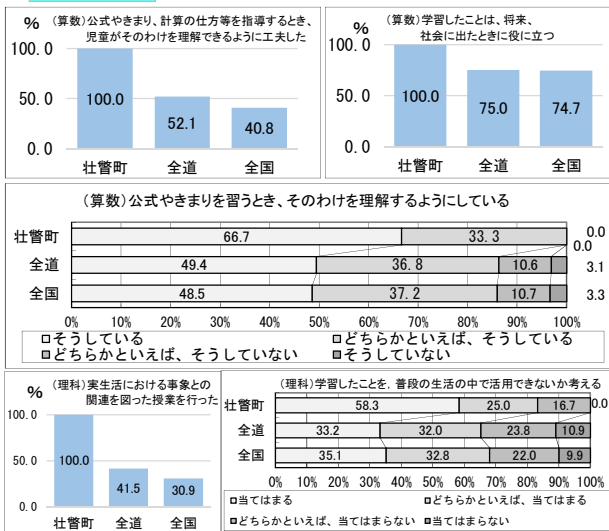


中学校

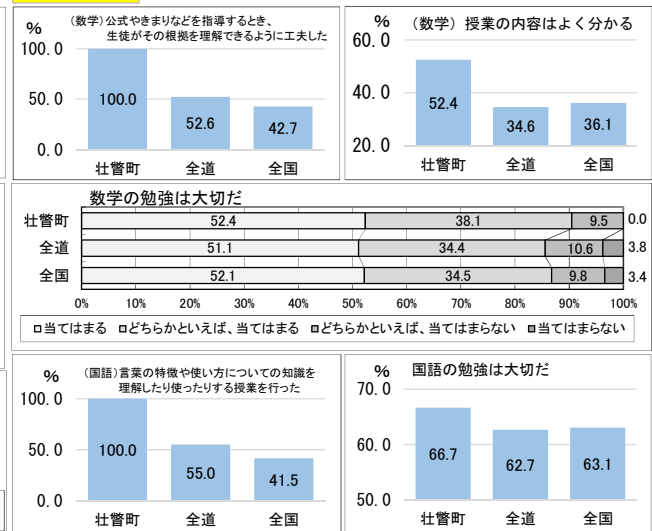


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、全ての領域で全国の平均正答率を上回るとともに、学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合及び公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、全ての領域で全国の平均正答率を上回るとともに、学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

数学において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がそのわけを理解できるように工夫したことにより、「図形」「関数」の領域で全国の平均正答率を上回るとともに、授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合及び数学の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

国語において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回るとともに、国語の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【壮瞥町の学力向上策】

- ◎ 各学校における客観的データに基づく課題の明確化及び改善に向けた取組の推進
- ◎ 町教育研究会における9年間を見通した目標や教育課程の編成による小中連携の充実
- ◎ 1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善の推進

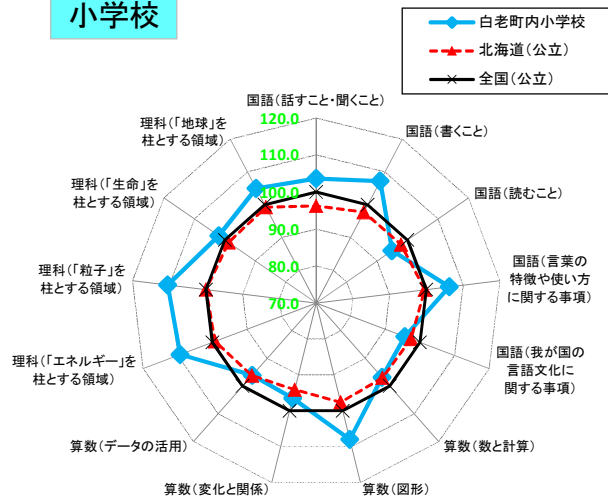
■白老町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:51人）（中学校数:2校、生徒数:56人）

【教科全体の状況】

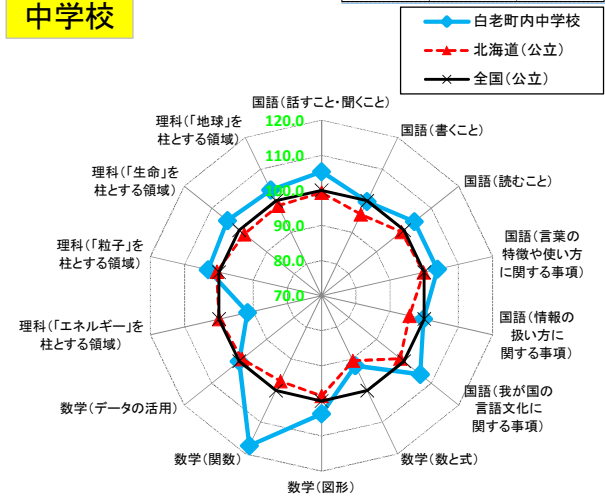
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	72
算数・数学	63	52
理科	67	50

小学校

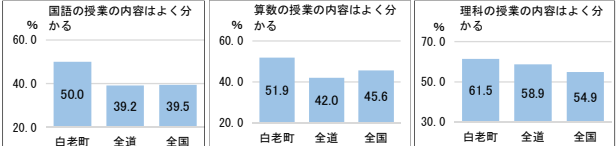
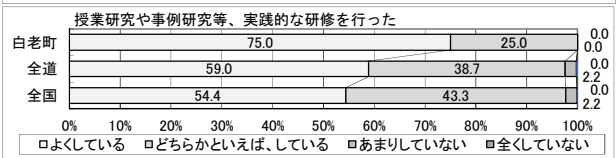
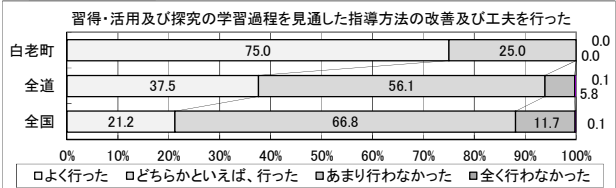


中学校

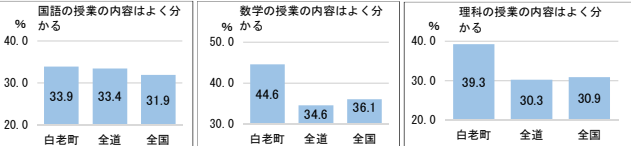
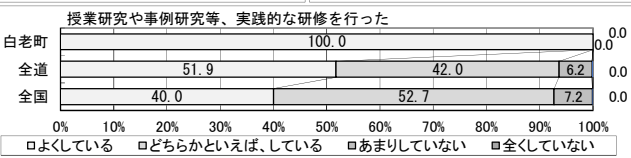
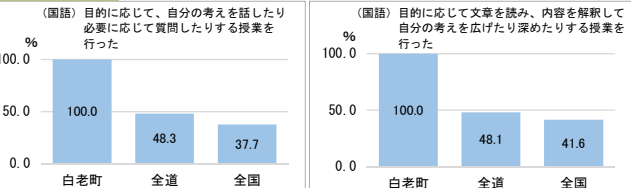


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で、学力向上を目指す「白老町スタンダード」に基づく授業改善に取り組むとともに、各小学校において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、理科において、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

町内の多くの小学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、国語、算数及び理科の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で、学力向上を目指す「白老町スタンダード」に基づく授業改善に取り組むとともに、国語において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業及び文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」において、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

全ての中学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、国語、数学及び理科の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【白老町の学力向上策】

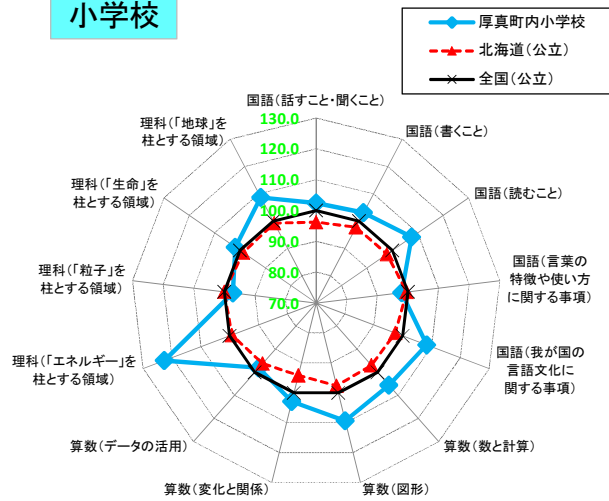
- ◎ 「白老町スタンダード」を基軸にした確かな学力の定着を図る取組の推進
- ◎ 小規模校における遠隔授業の実施及びICT端末を活用した取組の推進
- ◎ 町教育研究会を活用した小中連携の充実及び小中一貫教育の推進

■厚真町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:45人）（中学校数:2校、生徒数:27人）

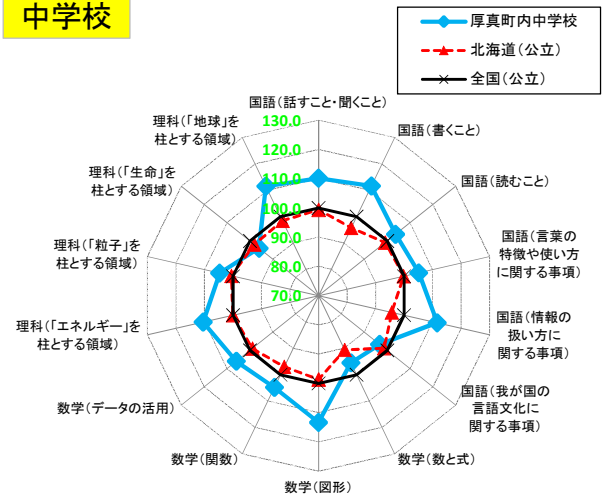
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

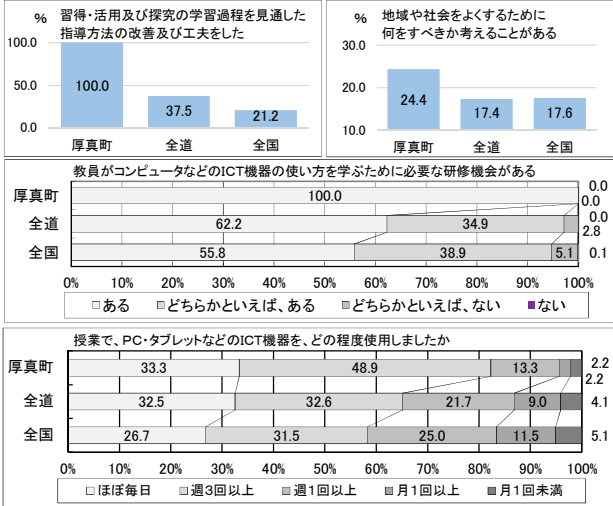


中学校

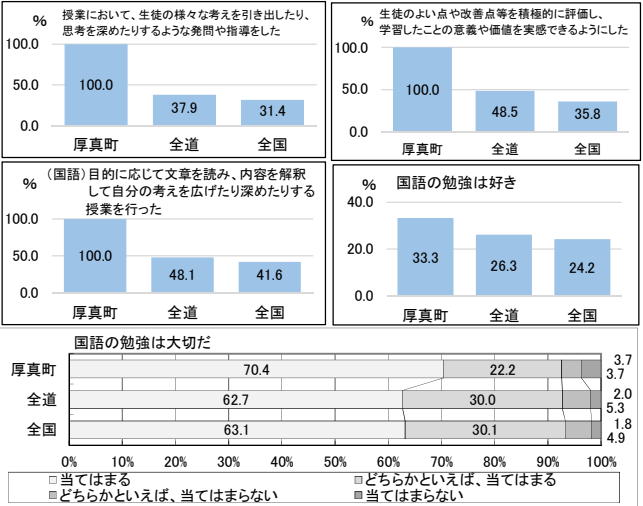


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町で統一した授業方法を徹底し、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、算数の「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域で全国の平均正答率を上回るとともに、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

全ての学校において、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設けたことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使っていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町内の全ての中学校において、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたり、生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、数学の「図形」「関数」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

国語において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の勉強は大切だと思う生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【厚真町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の学習課題解決に向けた学校改善プランの実践と検証
- ◎ 「厚真の未来を語る子」の育成に向けた小中一貫教育の取組の推進
- ◎ 厚真町教育研究所を中心としたICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進



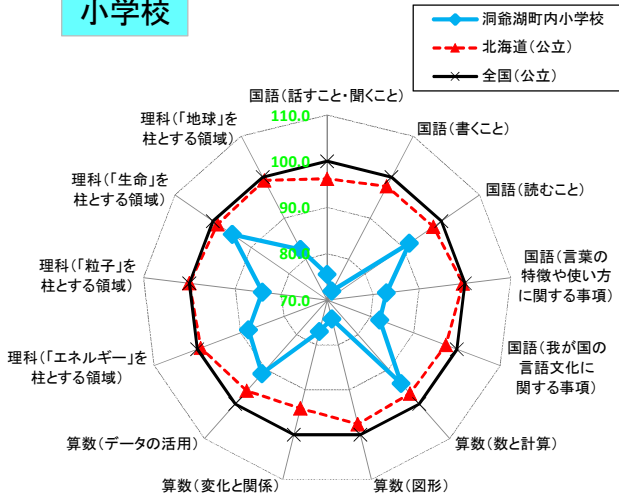
■洞爺湖町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:50人）（中学校数:2校、生徒数:44人）

【教科全体の状況】

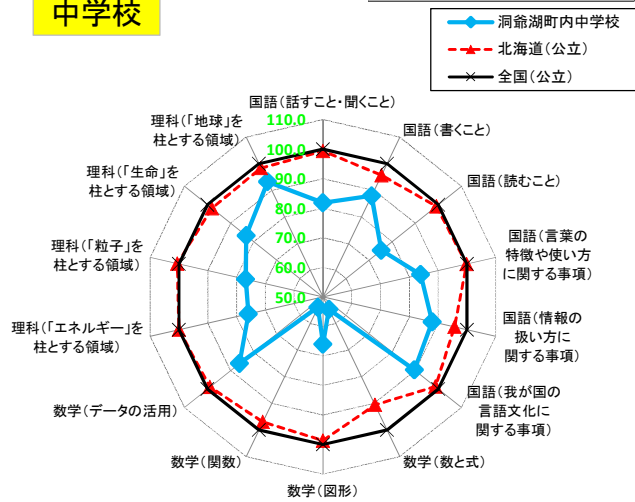
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	55	59
算数・数学	53	33
理科	57	41

小学校

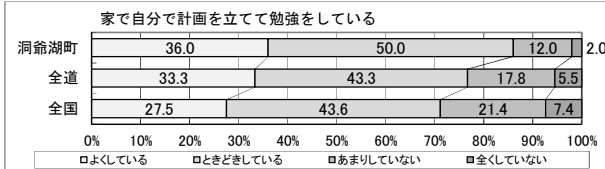
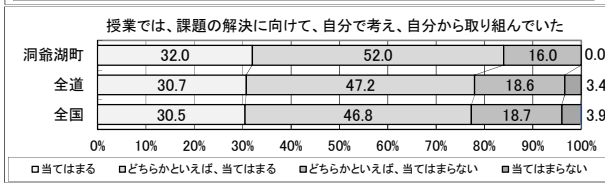
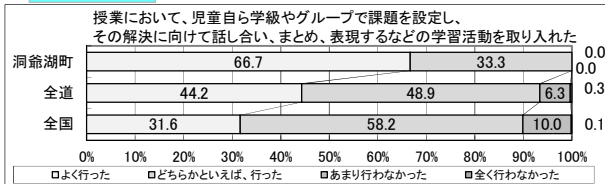


中学校

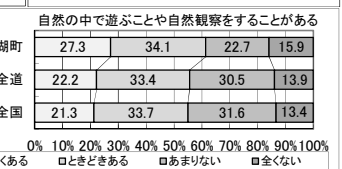
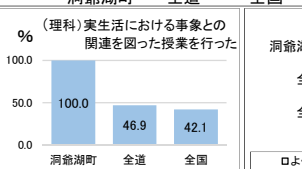
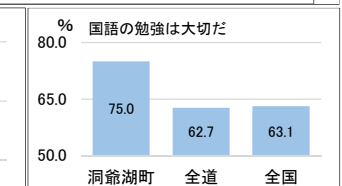
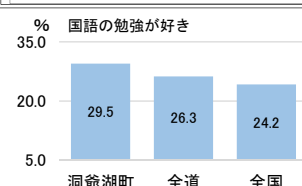
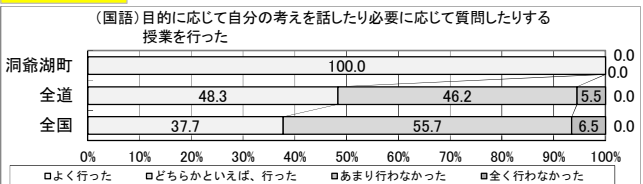


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

家庭学習の手引きを作成し、保護者と家庭学習の在り方について共通理解を深めたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語科の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の勉強が好きな生徒が全国及び全道の割合を上回るとともに、国語の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがよくある生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【洞爺湖町の学力向上策】

- ◎ 授業改善の視点や家庭学習の充実等に向けた取組を示した学力向上指標「スタンダード5」による町内共通の取組の徹底
- ◎ ICT端末の日常的な活用に向けた実践事例の共有
- ◎ 小中連携による連続した指導体制の確立

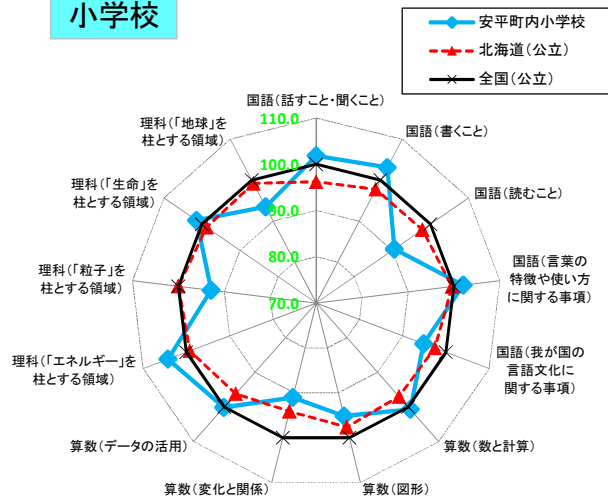
■安平町内の状況及び学力向上策（小学校数：4校、児童数：46人）（中学校数：2校、生徒数：48人）

【教科全体の状況】

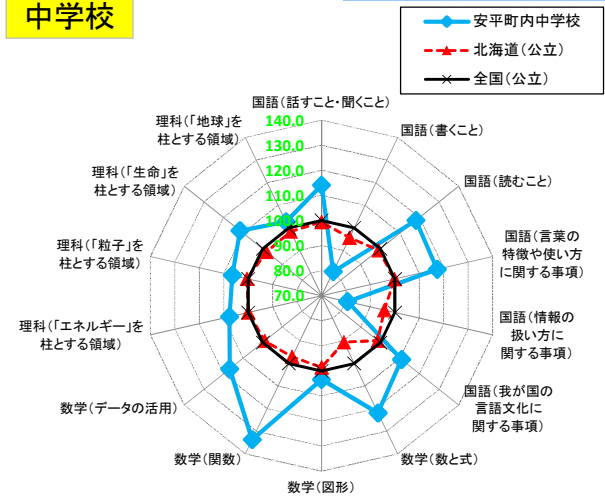
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	78
算数・数学	61	61
理科	62	53

小学校

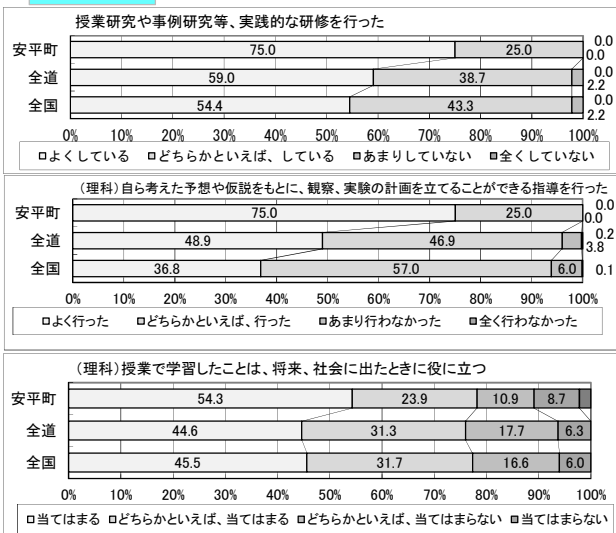


中学校

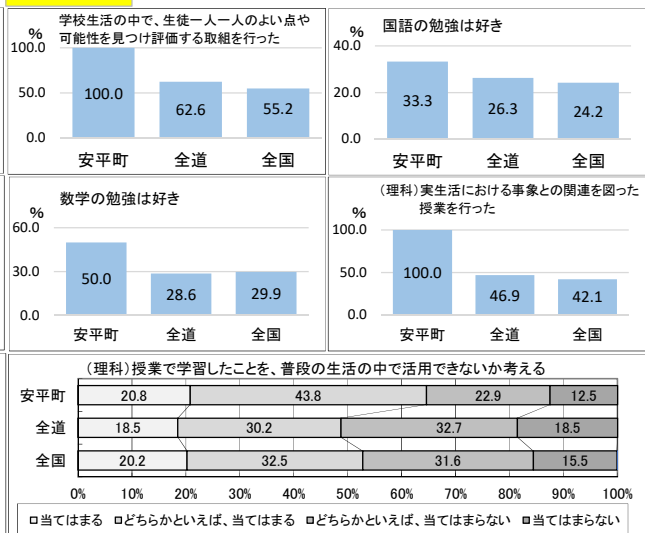


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で「安平町ハンドブック」の活用による授業改善を推進するとともに、各小学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数の「数と計算」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができる指導を行ったことにより、「エネルギー」「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回るとともに、授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

各中学校において、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行った成果が授業に反映され、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」、数学の全ての領域で全国の平均正答率を上回るとともに、国語及び数学の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、全ての領域で全国の平均正答率を上回るとともに、授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【安平町の学力向上策】

- ◎ 「安平町ハンドブック」の活用による授業改善及び教員の授業力向上
- ◎ 9年間を見通した指導計画の作成及び乗り入れ授業等による小中一貫教育の充実
- ◎ ICT機器やデジタル教材・アプリ等の有効活用に向けた授業交流及び研修会等の実施

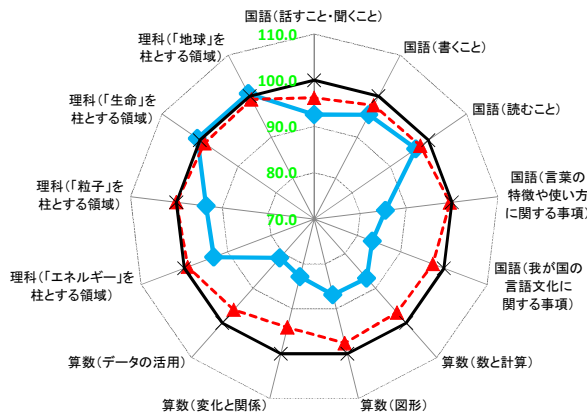
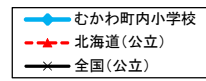
■むかわ町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:40人）（中学校数:2校、生徒数:48人）

【教科全体の状況】

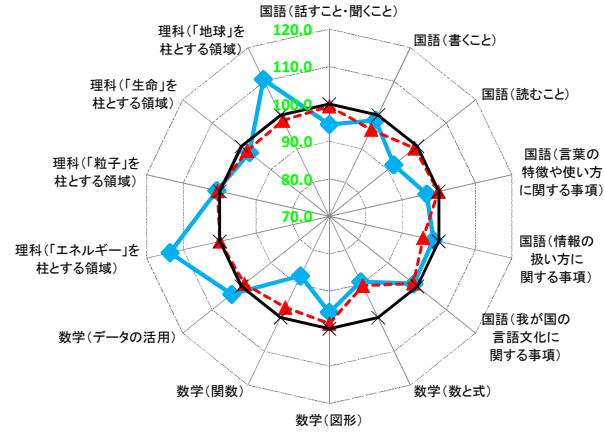
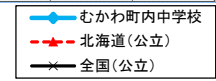
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	67
算数・数学	54	48
理科	61	52

小学校

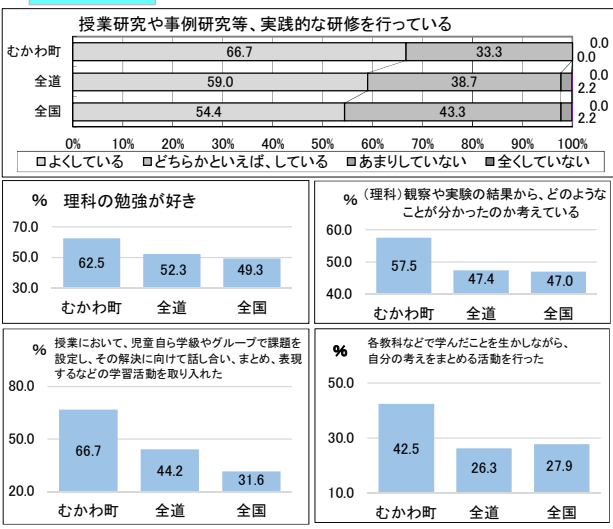


中学校

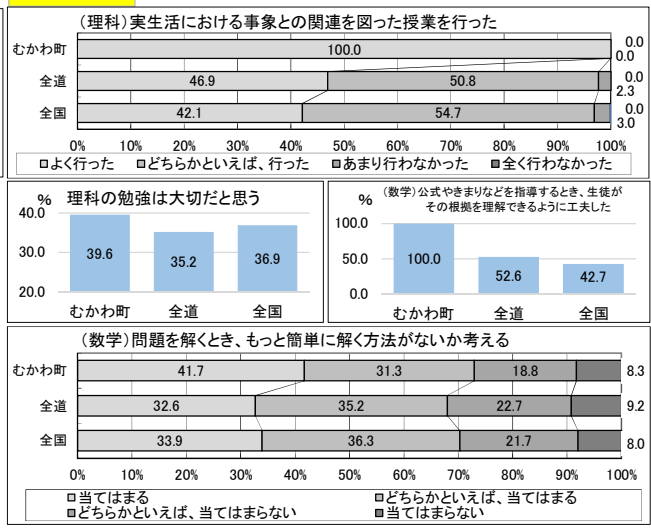


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町内の各学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、理科の「生命」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回るとともに、理科の勉強が好きと回答する児童及び観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

理科において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域で、全国の平均正答率を上回るとともに、理科の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

数学において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【むかわ町の学力向上策】

- ◎ 「家庭学習の手引き」を活用した望ましい生活・学習習慣の定着
- ◎ 対面とオンラインを組み合わせたハイブリット学習の実施
- ◎ 地域を担う人材育成を目的としたむかわ輪公営塾の開設